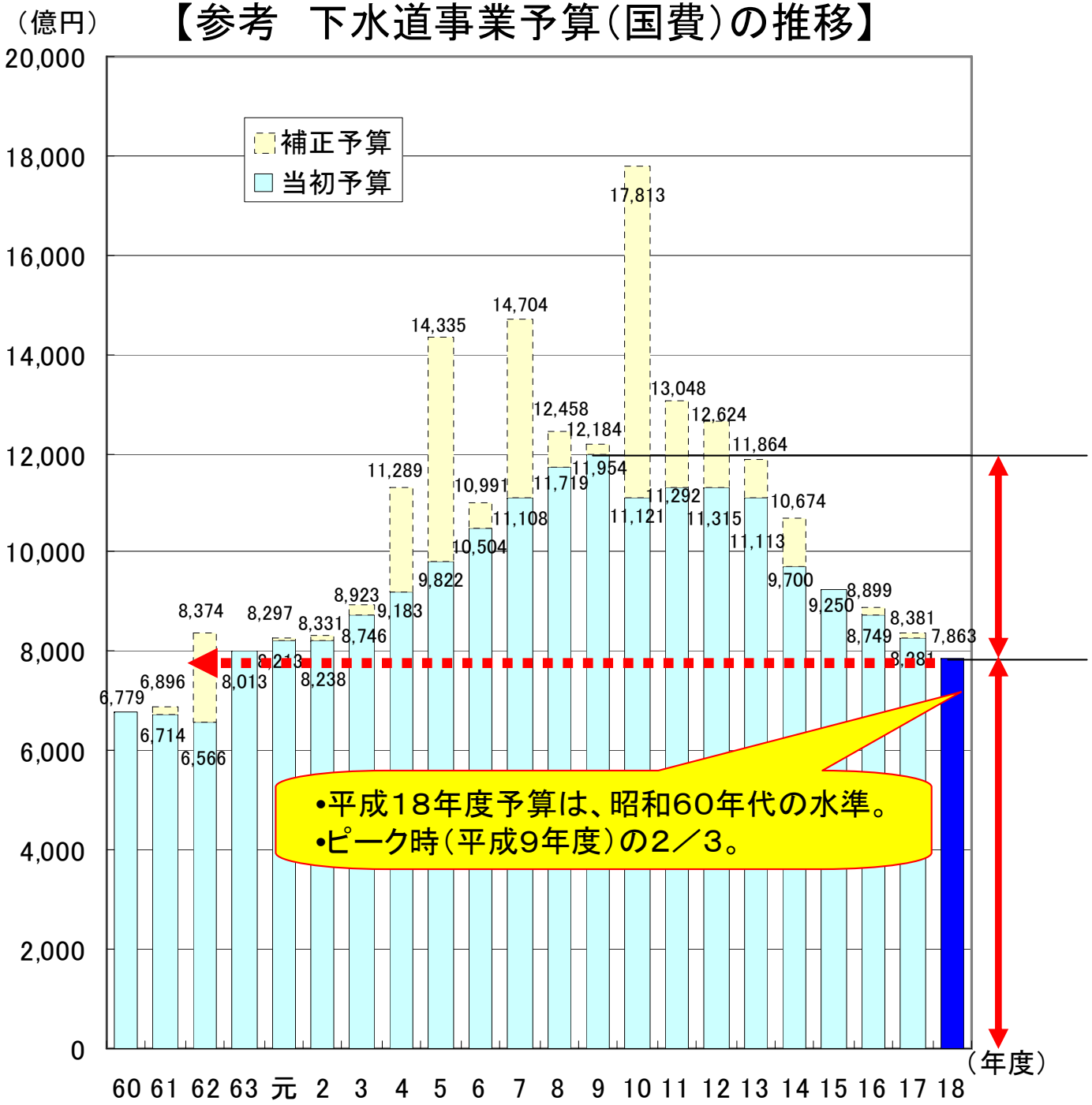
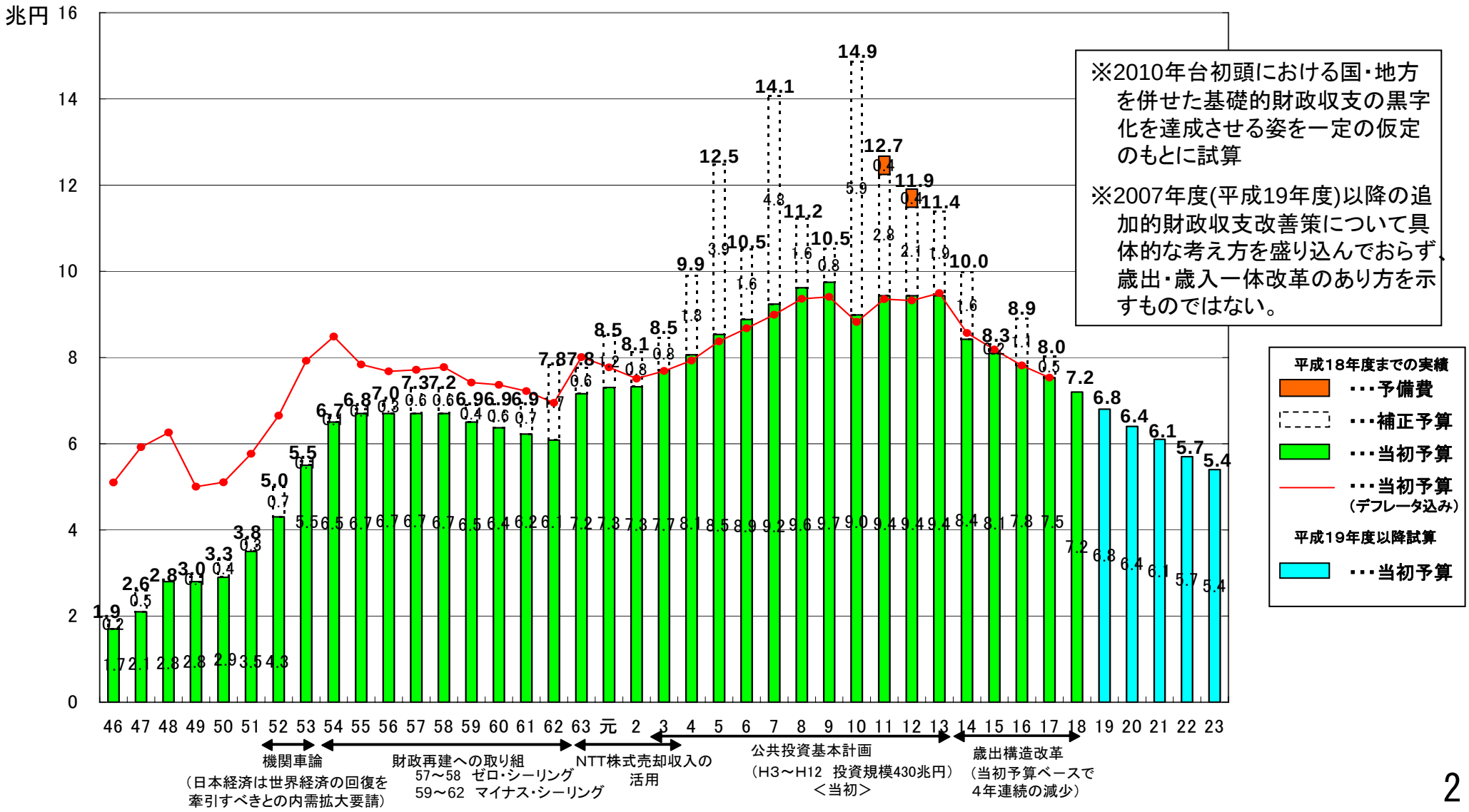
参考資料1

下水道をとりまく社会等の諸情勢
参　考　資　料

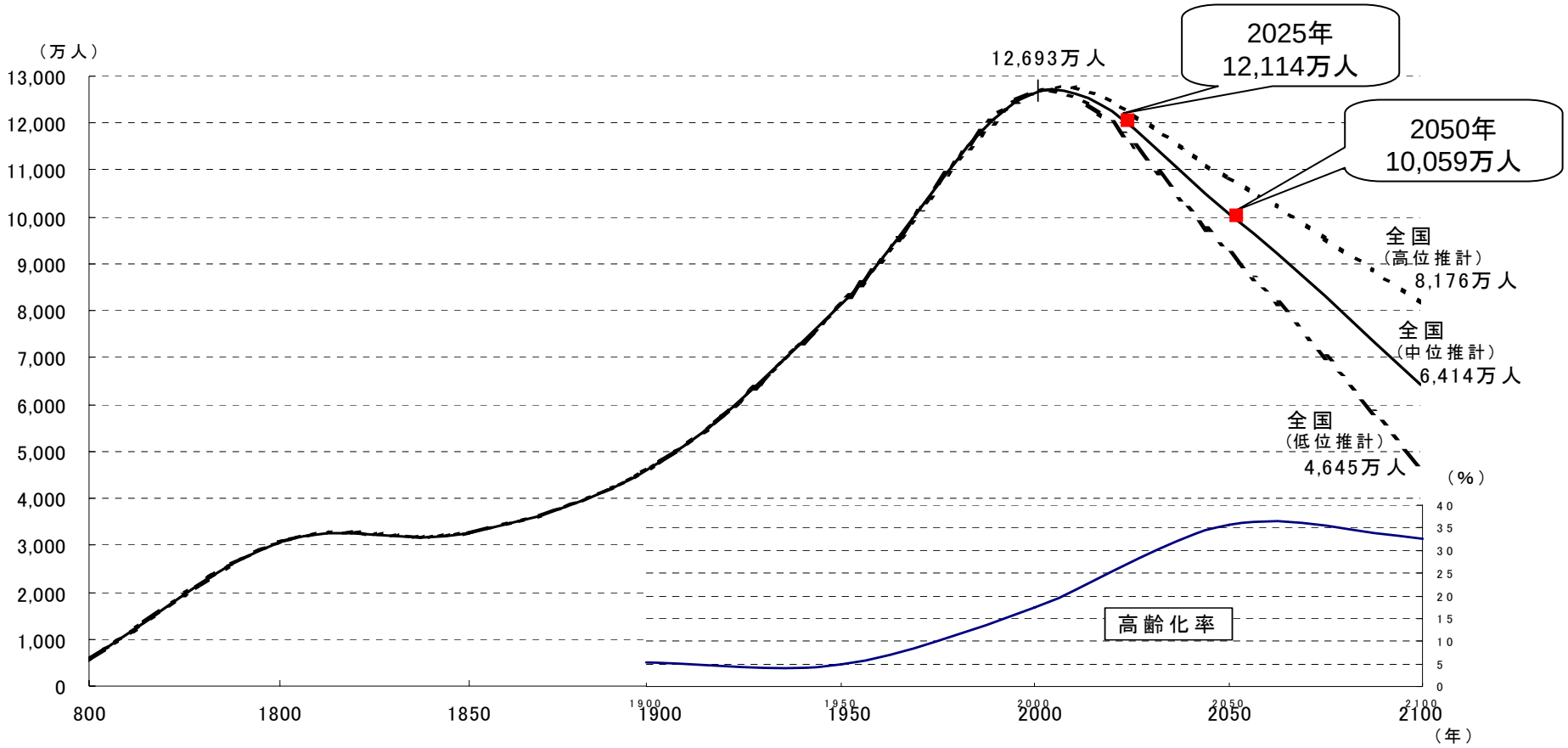
【参考　下水道事業予算（国費）の推移】



【参考これまでの公共投資額(実績値)及び「構造改革と経済財政の中期的展望-2005年改訂　参考試算(内閣府)」に示された今後の公共投資(毎年▲5.5%)】

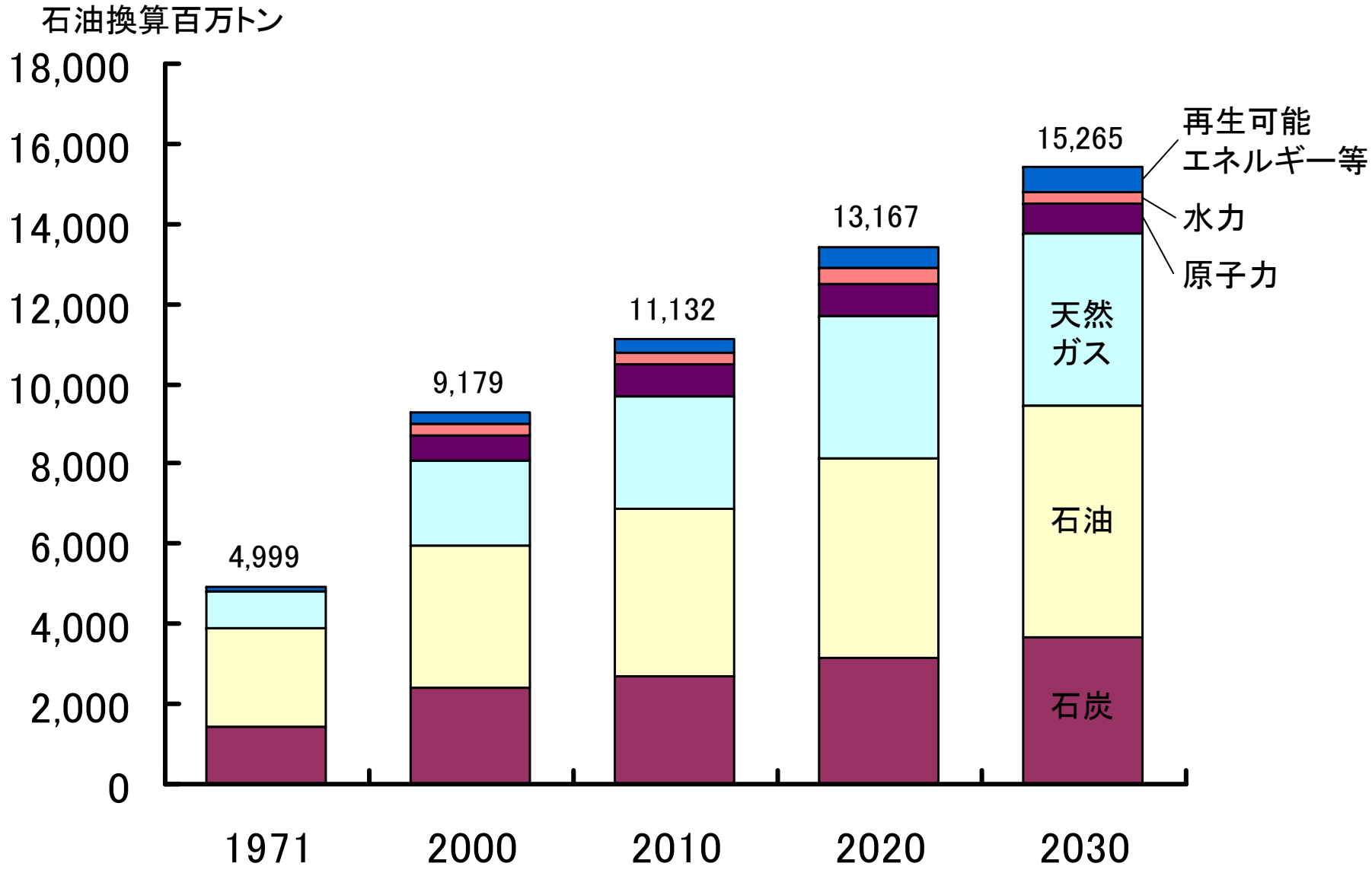


【参考　日本の人口予測】



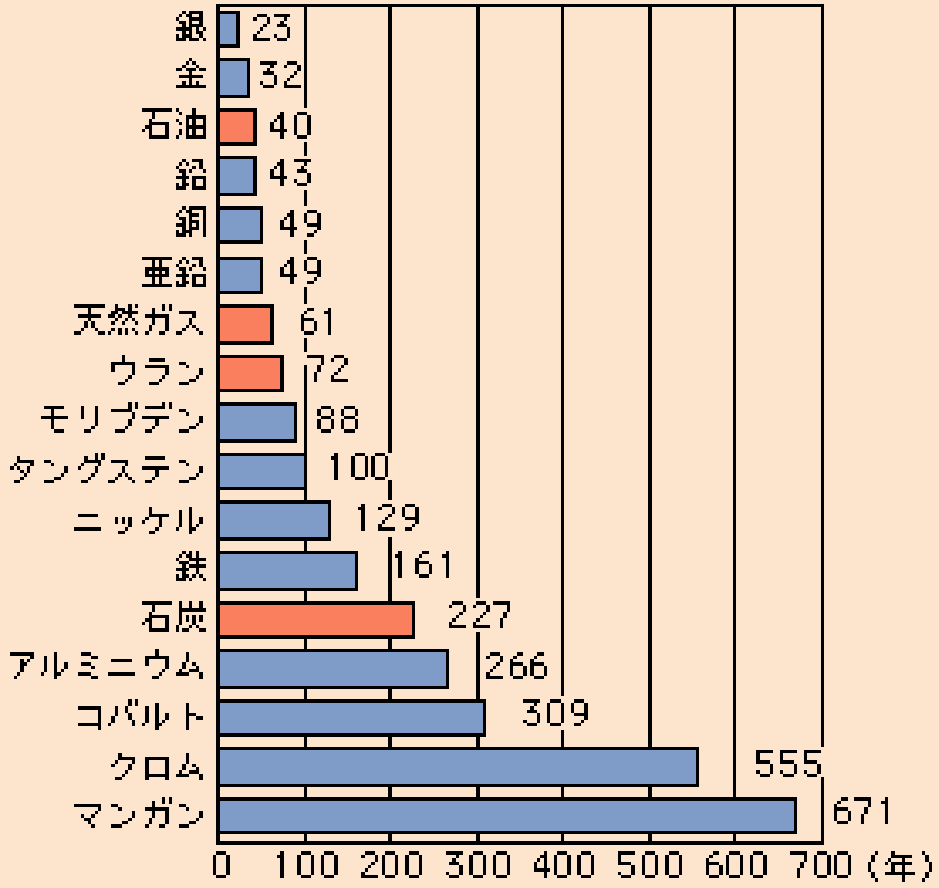
資料：　総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」及び国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」（1974年）をもとに国土交通省国土計画局作成したものに下水道部が加筆

【参考　世界の燃料別エネルギー需要の推移と見通し】



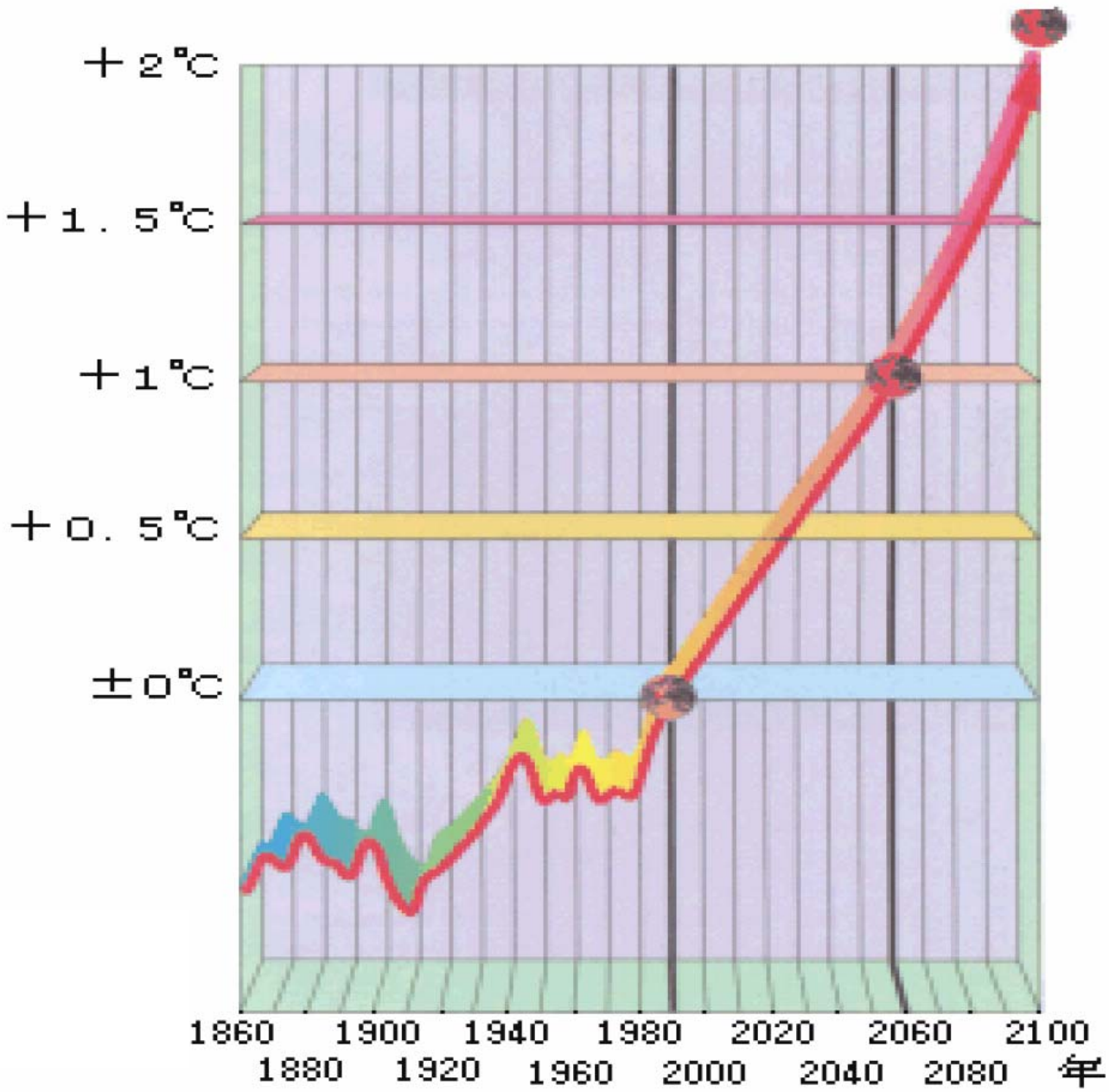
（出典）IEA/World Energy Outlook 2002

【参考　主要なエネルギー資源・鉱物資源の残余年数】



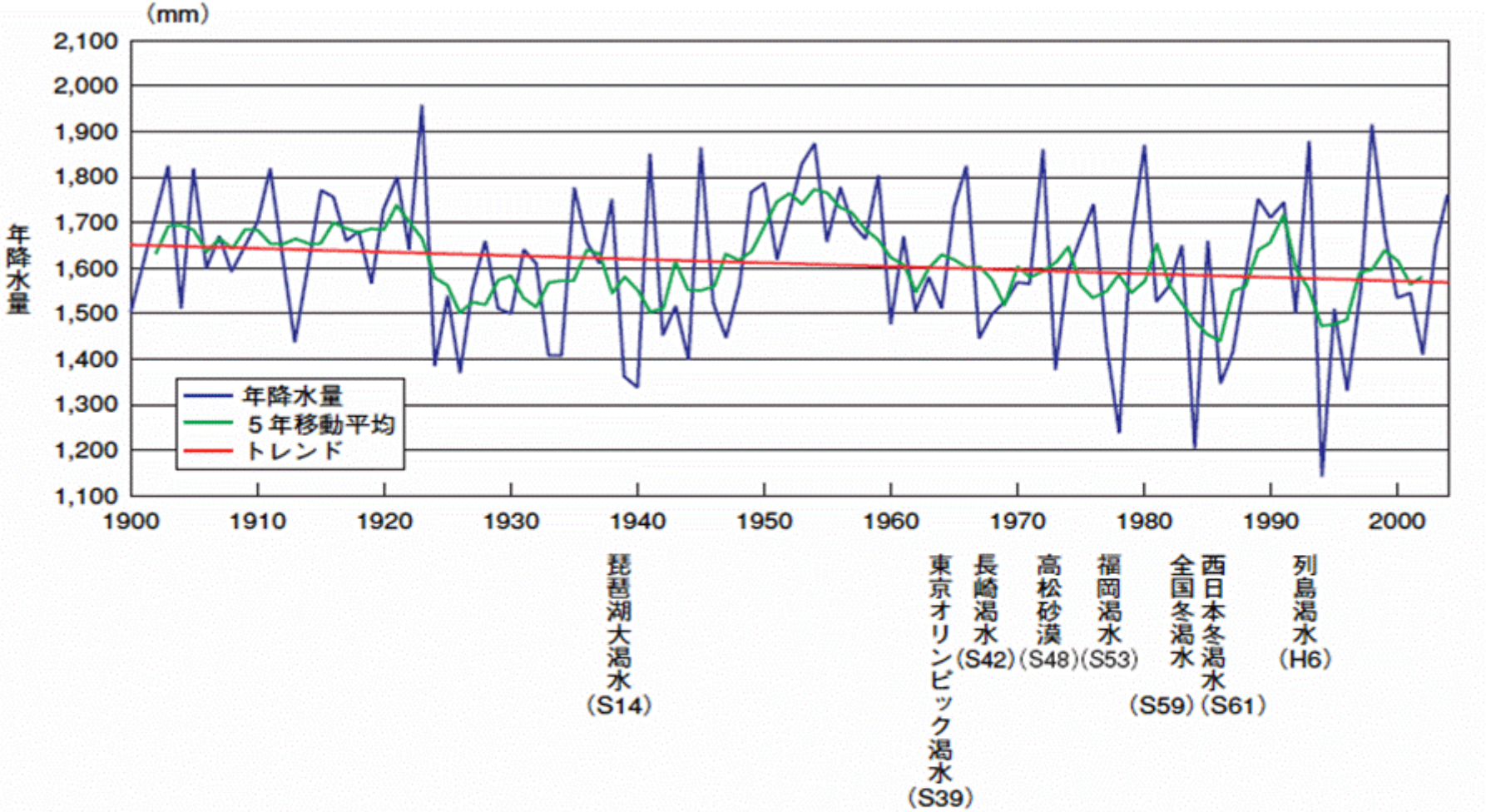
平成12年現在（ただし、ウランは平成9年、アルミニウムは平成11年）
残余年数＝埋蔵量／生産量
資料：BP Amoco『Statistical Review of World Energy 2001』、OECD/NEA-IAEA、Mineral Commodity Summaries 2001（一部2000）、World Metal Statistics 2001より環境省作成

【参考　世界的な気温上昇の予測】



気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書より環境省作成

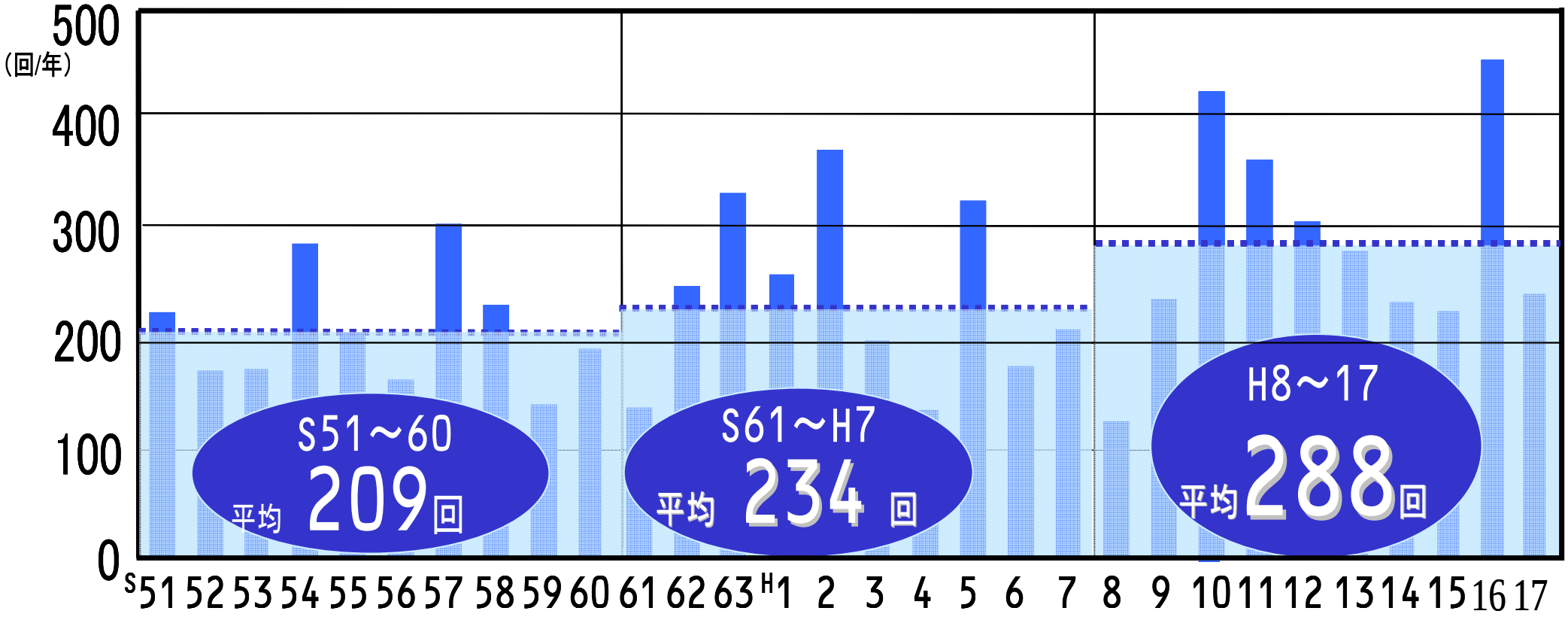
【参考　日本の年降水量の経年変化】



（注）1. 気象庁資料に基づいて国土交通省水資源部で試算。全国51地点の算術平均値。
地点名：旭川　網走　札幌　帯広　根室　寿都　秋田　宮古　山形　石巻　福島　伏木　長野　宇都宮
福井　高山　松本　前橋　熊谷　水戸　敦賀　岐阜　名古屋　飯田　甲府　津　浜松　東京
横浜　境　浜田　京都　彦根　下関　呉　神戸　大阪　和歌山　福岡　大分　長崎　熊本
鹿児島　宮崎　松山　多度津　高知　徳島　名瀬　石垣島　那覇
2. 折線（青線）は年降水量，折線（緑線）は5年移動平均，赤線はトレンド（回帰直線による）を示す。
3. 各年の観測地点数は欠測等により必ずしも51地点ではない。

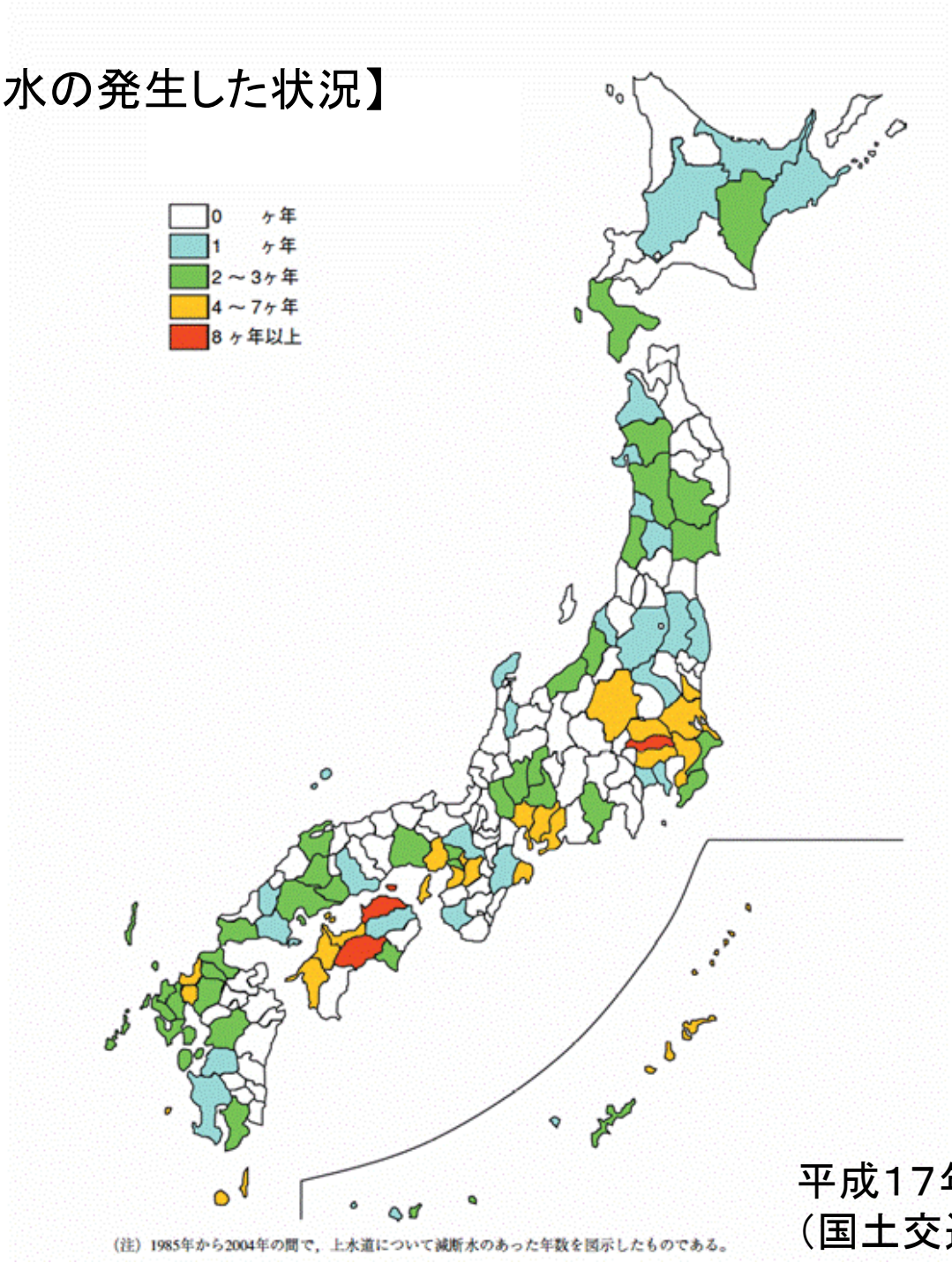
平成17年　日本の水資源
（国土交通省　水資源部）

【参考　時間降水量 50 ㎜以上の降水の発生回数】



1時間降水量の年間延べ件数
（全国のアメダス地点　約1,300箇所より）

【参考　最近20カ年で渇水の発生した状況】



平成17年　日本の水資源
（国土交通省　水資源部）

【参考　過去30年の地震と巨大地震の震源域】

首都直下地震(M7級)

M7クラスの地震は
ある程度の切迫性を有する

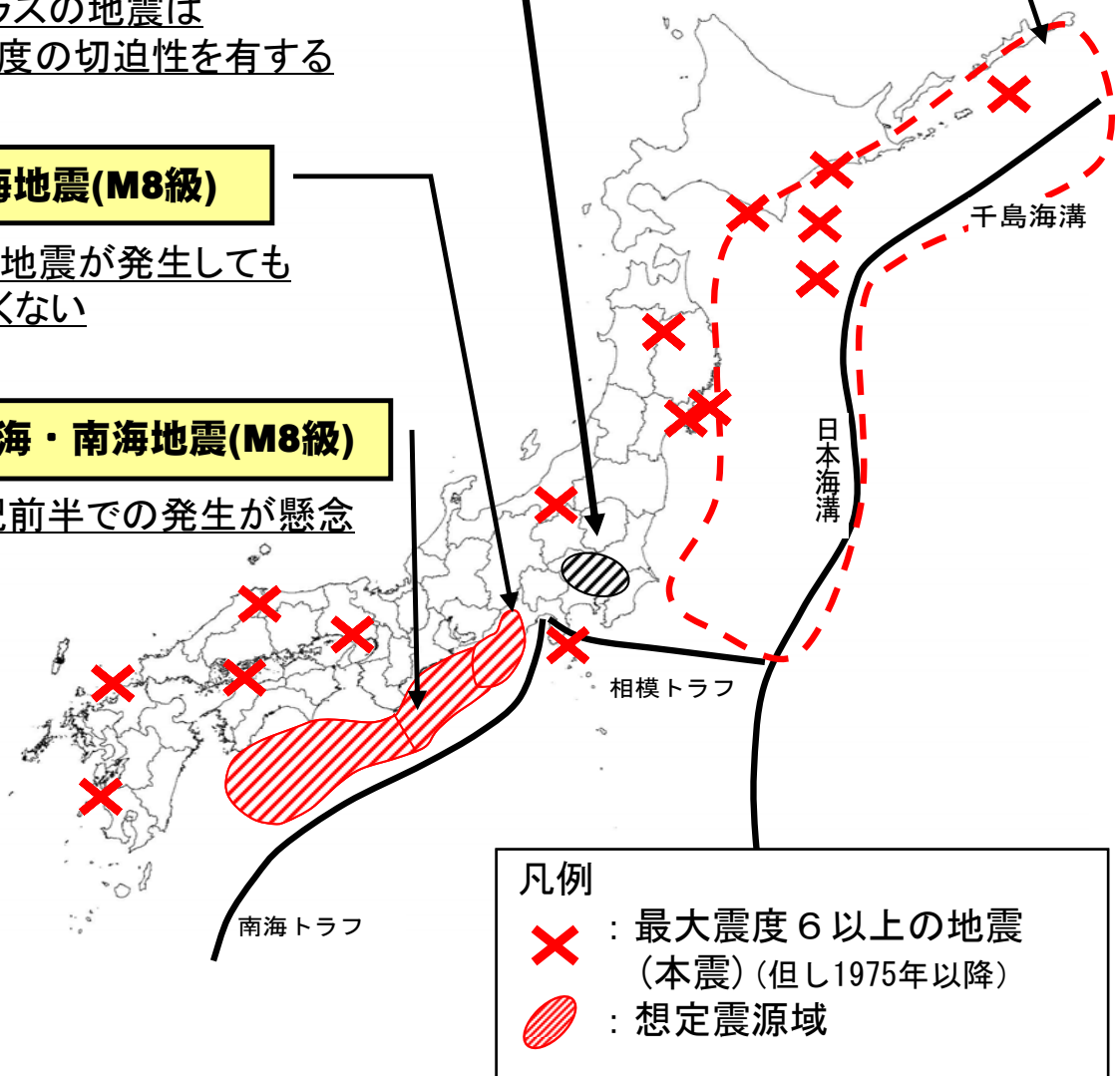
東海地震(M8級)

いつ大地震が発生しても
おかしくない

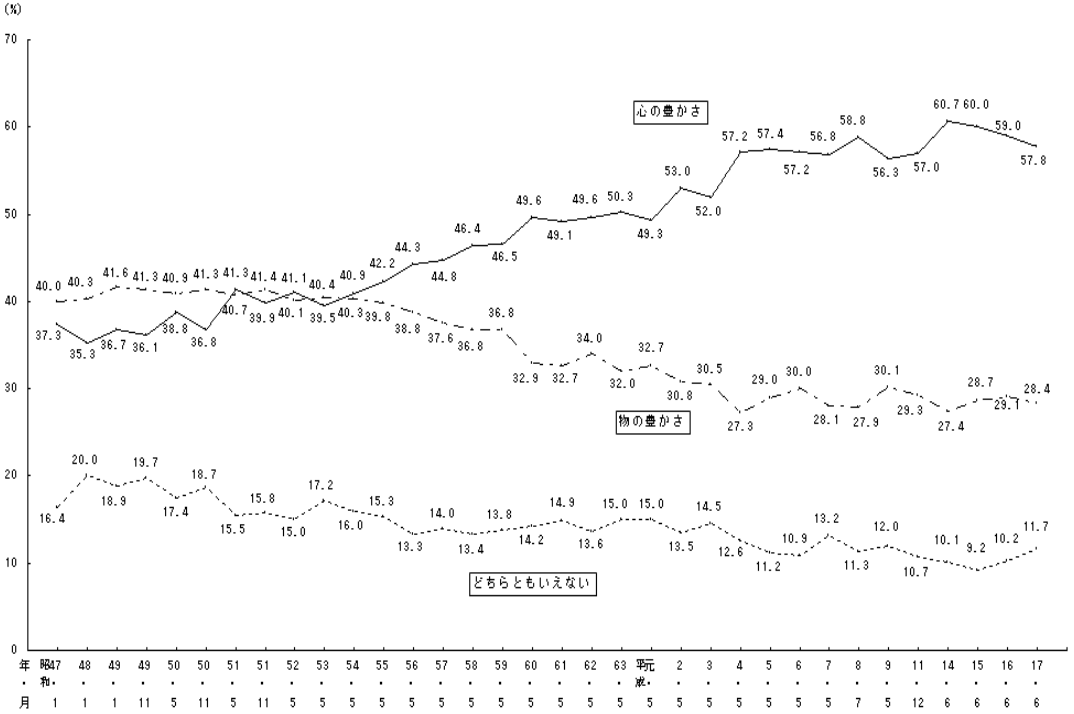
東南海・南海地震(M8級)

今世紀前半での発生が懸念

**日本海溝・千島海溝
周辺海溝型地震**



【参考　心の豊かさへの欲求の高まり】

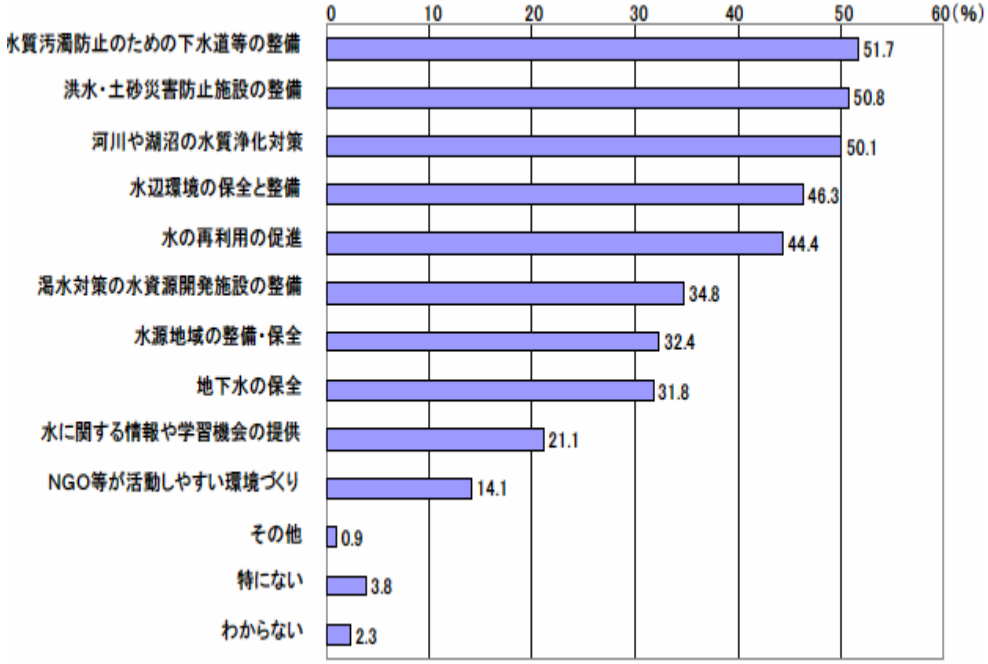


（注）心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので，これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

内閣府「国民生活に関する世論調査」（H17.6）

【参考　水に関する行政への要望】

行政に力を入れて欲しいこと（複数回答）



内閣府「水に関する世論調査」(H13.11)